

# 公開講座通信

Monthly letter from insource

9  
September

## 生産性向上の鍵とは？

### 次は「生産性向上」と「人づくり」

過日、安倍首相は、日本経済の持続的成長に向けて、働き方改革とともに「生産性向上」と「人づくり」に取り組む姿勢を表明しました。働き方改革では、長時間労働の是正や、同一労働同一賃金の推進など、どちらかという国民の福祉に焦点が当てられた話を中心でした。もちろん、従業員が継続的に働き続けられるような環境を整えることは、持続的経済成長においても不可欠のものです。そこに新たに、「生産性向上」と「人づくり」というテーマが加わり、いよいよ攻めの姿勢で経済活動にドライブをかけていこうという姿勢が明らかになってきました。

### 「How」から考える生産性の向上

さて、生産性向上と言えば、真っ先に上がるのが「より効率的に業務に取り組む」という考え方ではないでしょうか。類似する仕事は一度にまとめて行う、手順を改善してミスを減らす、ITを活用して業務の自動化を図る等、効率化を通じた生産性向上策は、過去からずっと取り組んできたものと思われます。これらは「どのように取り組むか」、つまり「How」から考える生産性の向上ということができます。しかし、「How」にばかりに注目してしまうと、思わぬところで足をすくわれることがあります。いくら効率的に業務がこなせるようになって、そもそもその仕事自体に必要性が無くなってしまった場合、そこに投じた労力は無駄になってしまいます。釣りで例えれば、どれだけ釣りのスキルを高めた所で、魚のいない池に釣り糸を垂れても釣果は期待できないのと同じです。今、従業員の貴重な時間をかけて取り組んでいる「改善活動」は、この先も本当に必要な仕事なのか、一度振り返ってみる必要があるかもしれません。

### 「Why」の発想による生産性向上

では、リーダーがメンバーを動かす上で必要となることは何か。それは、「なぜ」取り組むのか、という「Why」の発想です。なぜそれに取り組むことが必要だと考えたのかをメンバーと共有し、同じ意識でもって課題に立ち向かうことで、全員の力を効果的に使って大量の魚を獲ることができるようになります。これまでの日本の組織における生産性向上は、もっと多く、前よりもより良く、という「改善」の発想で行われてきました。しかし、変化の時代に突入した今、前例を疑い、そもそも論で考える発想で、生産性向上策を模索していくことが求められています。考える習慣とメソッドを身に付けた「人づくり」が、今の時代の「生産性向上」には欠かせないということではないでしょうか。

NEW

### 新作研修のご紹介

#### クリティカルシンキング研修～本質を見抜く力を養う

- ・重要な要素・手順・注意点を学び、物事をありのまま受け入れるのではなく、現状を「疑う力」を実践していただきます。
- ・「クリティカルシンキング」とは何か、どのような効果があるのか、どのように使えばいいのか、を職場に持ち帰っていただけるように実践的なケースをもとに演習に取り組んでいただきます。

#### LEGO SERIOUS PLAY を活用したワークショップ

本ワークショップでは、様々な色や形をしたプラスチック製の組み立てブロック玩具を活用します。その活用用途は「玩具」だけにとどまらず、「表現するツール」としても注目を浴びています。お互いに考えや思いを共有し、それを受け止め合うことで、深い相互理解とそれを基にした信頼関係の構築を実現していきます。